日本語スタイルガイド

2007 年 3 月
Revision A

目次

はじめに

この資料は、日本語ドキュメントを、読み手にとっては「読みやすいもの」に、作り手にとっては「作りやすいもの」にするために、文体や訳語のルールを提案するものです。

注意ーこの資料は、サン・マイクロシステムズ株式会社 (以降は「Sun」とする) で使用している『日本語スタイルガイド』の内容をコミュニティー向けに再編成したものですが、記載されている内容は、ほぼ同じです。この内容は、予告なしに変更されることがあります。変更があった場合は、変更内容を明記した上で、改訂されたマニュアルを公開します。

目的

この資料の目的は次の 3 点です。

- スタイルを統一して読みやすくする
- ドキュメント作成時に迷う要素を少なくする
- ドキュメントの内容を再利用または共有しやすくする

内容の紹介

本書は、次の章から構成されています。

第 1 章「翻訳のルール」
基本的なルールについて記載しています。

第 2 章「翻訳のヒント」
知っていると便利な内容について記載しています。

第 3 章「メッセージの翻訳」
　Sun で使用しているメッセージの翻訳ガイドラインを紹介しています。第 1 章および第 2 章とは異なるものや、追加で必要な内容について記載しています。

付録 A「送りがなの付け方一覧」
　送りがなはどうだったか、と迷ったときに。

付録 B「漢字とかなの使い分け一覧」
　漢字にしようかひらがなにしようか、と迷ったときに。

付録 C「参考資料」
　Sun の用語集データベース SunGloss の使い方や質問の宛先を記載しています。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-2　表記上の規則

字体または記号	意味	例
`AaBbCc123`	コマンド名、ファイル名、およびディレクトリ名を示します。または、画面上のコンピュータ出力を示します。	`.login` ファイルを編集します。`ls-a` を使用してすべてのファイルを表示します。 `system%`
`AaBbCc123`	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	`system%`**`su`** `password:`
AaBbCc123 または <NNNN>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、`rm` *filename* と入力します。 ファイルを削除するには、`rm` <ファイル名> と入力します。
強調表示	強調する語句を示します。	この場合にのみ適用します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節を示します。	第 5 章「メールツール」を参照してください。

第 1 章

翻訳のルール

この章には、翻訳に必要な最低限のルールについて説明します。複数の人が翻訳に携わる場合、また、リリースを重ねて翻訳を進める場合には、一定のルールを決めて一貫性を保つことが重要になります。

用語の選択

技術的な用語の訳を考えたり調べたりする場合は、次の方針を参考にしてください。

用語選択の方針

1. 広く使用されている訳を使用する

   IT 企業各社の用語を参考にします。Sun の場合は、SunGloss (サングロス - http://g11nportal.sun.com/sungloss/) という用語集データベースを公開しています。その他にも以下のサイトが参考になります。

   Sun: http://docs.sun.com
   http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs
   IBM: http://www-6.ibm.com/jp/manuals/nlsdic/nlsdic.html
   Microsoft: ftp://ftp.microsoft.com/developr/msdn/newup/Glossary/
   HP: http://docs.hp.com/ja/index.html

2. できるだけ日本語 (漢字・ひらがな) にする

3. カタカナにする

4. 英語にする

上記の 2 ー 4 のように、自分であらたに訳を考える場合は、次の点について考慮してください。

1. 技術的に誤解を与える可能性が低い
2. 意味を理解しやすい
3. 呼び名として簡潔である
4. 既存の製品間で矛盾や不均衡がない
5. スタイルガイドに従っている

表記方法

句読点

日本語の場合は、句点は全角の「。」を、読点は全角の「、」を使用します。コンマ「,」、ピリオド「.」は使用しません。英語の表記をそのまま残す場合は、英語のピリオドおよびコンマをそのまま使用してください。

ただし、マニュアルページにある、コマンド一覧 (See Also- 関連項目) に使用されているコンマ (,) は、日本語版でもコンマ (,) として使用します。読点 (、) に置き換える必要はありません。

例: 【関連項目】chmod(1), cp(1), setfacl(1), terminfo(4), attributes(5), ...

句点を打つかどうかは、英語のピリオドの有無に従います。つまり、英語でピリオドがあれば、日本語にも句点を付けます。こうすると、翻訳メモリーで再利用された場合にも問題が起こりにくくなります。ただし、明らかに英語の問題でピリオドを付け忘れているといった場合には、日本語の方だけ付ける方がよいでしょう。

全角文字と半角文字の使い方

- 日本語には全角文字 (2 バイト文字) を使います。
- 英数字には半角文字 (1 バイト文字) を使います。
- 符号には半角文字を使います。

次に例を示します。

@ # $ % & ^ - + = _ \	* . : ? ! ” ( )

次に例外を示します。

～　『　』　「　」　。　、・

注ー「ドラッグ＆ドロップ」の「&」のように、全角文字 (2 バイト文字) で表現が定着しているものは全角文字とします。

スペースの使い方

半角文字と全角文字の間

半角文字と全角文字の間には、半角文字 1 字分のスペースを入れます。たとえば、「ここには 2 種類のファイルがあります」のようになります。ただし、半角文字の前後が次の全角文字の場合にはスペースは入れません。

```
『 』 「 」 。、
```

また、コロンを次のように使用する場合も、コロンの前にはスペースを入れません。

```
Solaris の場合: pkginfo
```

丸括弧 ( ) の外側

丸括弧 ( ) の外側には、全角文字がきても半角文字がきても間に半角文字 1 文字分のスペースを入れます。

ただし、マニュアルページや関数の表記は例外で、「(」の前にはスペースを入れません。次に例を示します。

```
mountall(1M) を参照してください。
```

丸括弧 ( ) の内側

丸括弧 ( ) の内側には、全角文字がきても半角文字がきても間にスペースを入れません。

用字用語の使い方

ここではルールについて簡潔に記載しています。用字用語の使い方の具体例などの詳細は、第 2 章 35 ページの「用字用語の使い方」を参照してください。

漢字の使い方

常用漢字表 (付表を含む) に従います (参考: 文化庁の常用漢字表 - http://www.bunka.go.jp/kokugo/ の「内閣告示・内閣訓令」セクション)。

常用漢字表にない読み方の語は、原則としてかな書きにします。読みにくくなる場合や意味がわかりにくくなる場合、あるいは固有名詞や専門用語などは、交ぜ書きにするか、常用漢字以外の字を使います。略字や俗字は使わないでください。漢字は「常用漢字表」(付表も含む) に従います。

詳細は、第 2 章の 10 ページの「漢字の使い方」および付録 B「漢字とかなの使い分け一覧」を参照してください。

同音異義語・同訓異字

同音異義語・同訓異字などの使い方は、『朝日新聞の用語の手引』を基準とします。誤りやすい例については、第 2 章の 35 ページ「同音異義語・同訓異字」を参照してください。

漢字とかなの使い分け

原則として名詞と動詞には漢字を使い、接続詞、連体詞、助動詞、補助動詞、助詞、連語、形式名詞、接頭語、接尾語はかな書きにします。代名詞と副詞には、やさしい漢字で読みやすい語の場合は漢字を使います。詳細については、第 2 章 36 ページの「漢字とかなの使い分け」および付録 B「漢字とかなの使い分け一覧」を参照してください。

カタカナ語

カタカナ語の表記方法は次のとおりです。ただし、カタカナ語が多くなると文章が読みにくくなるので、適切な訳語がある場合は日本語で書きます。

長音記号

長音を含めて 4 文字になる単語には、長音を付けます。5 文字以上になる単語には付けません。拗音も一字と数えます。合成語の場合は、各要素に対してこの考え方を適用します。例: ユーザー、サーバー、マスター、デバッガ、コンパイラ、インストーラ

ただし、次の場合は例外とします。

- 英単語の末尾が er, ar, or, re, y, ew となるもののうち、日本語の末尾が拗音になるものには、長音を付けます。例: アーキテクチャー、コミュニティー
- 他の単語を混同しやすくなるもの、固有名詞、および、日本語として長音記号を付けた形で定着しているものには、長音を付けます。例: ランデブー、キャンパー

次に長音を付ける・付けないの例を示します。

単語の例	理由
バッファー	英語の末尾が er で、日本語の末尾が拗音なので長音を付ける
ユーザーインタフェース	「ユーザー」と「インタフェース」の合成語なので、ユーザーには長音を付ける
キャッシュ (長音を付けない)	日本語は拗音で終わるが、英語の末尾が er, ar,or,re, y, ew のいずれかでないため、長音は付けない
プロキシ (長音を付けない)	英語の末尾は y であるが、日本語は拗音で終わらないため、長音は付けない

注ーこの方針は、テクニカルコミュニケーター協会のカタカナ表記検討ワーキンググループからの報告を参考にまとめたもので、「発音どおり長音を付けるのがよい」という市場調査結果と、「長音は付けない」というこれまでの表記方法とのいわば「折衷案」です。

中点「・」

カタカナの複合語には、用語集などで特に指定しないかぎり、原則として中点「・」は使用しません。カタカナ語が長くなり過ぎて意味がわかりにくくなる場合は、「の」で区切るなどの工夫をしてください。ただし、カタカナが続いて区切りがわかりにくくなる場合は、中点を使ってもかまいません。

(誤)　マニュアルの章・節・項の名前は、「」で示します。

↓

(正)　マニュアルの章、節、および項の名前は、「」で示します。

(誤)　テキストエディタ・ベースウィンドウが表示されます。

↓

(正)　テキストエディタのベースウィンドウが表示されます。

ただし、カタカナが続いて区切りがわかりにくくなる場合は、中点を使ってもかまいません。

(誤)　ライブラリリファレンスマニュアル

↓

(正)　ライブラリ・リファレンスマニュアル

日本語にするかどうか

翻訳が必要な箇所

リンク (URL)、リンクテキスト、参照マニュアル名、市販の本、その他の固有名詞については、日本語版が存在する場合には翻訳します。それぞれについて内容を確認し、日本語情報に置き換えてください。マニュアル名や固有名詞の翻訳方の詳細は、第 2 章 38 ページの「その他の表記」を参照してください。

翻訳が不要な箇所

- リリース名
  Update、Version、Release など、呼び名の一部として使用されている場合は、翻訳しません。例: StarSuite Update 1、Version 1.1、Release 1.10.1

  ただし、製品名中にあってリリースそのものを指すのではなく、一般的な呼び名として使用されている場合は例外として、日本語にします。

  例: This **release** of the product provides extensive features including...: このリリースの製品には、... などを含む広範囲な機能が提供されています。

- 製品名、商標
  製品名または商標名かどうかは、各社のサイトを参照します。Sun の場合は、`http://reliant.central.sun.com/Tmark/` で確認できます。

- 日本語に翻訳されていないマニュアル名
  翻訳されているかどうかは、各社のドキュメントサイトを参照します。Sun の場合は、`http://docs.sun.com` および SunDocs (`http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs`) で該当するマニュアルがあるかどうかを調べて、あればその名前を使用します。

- プログラム例

  コメントを翻訳するかどうかは、状況によって異なります。「実際のファイルにコメントが英語で書かれているものを紹介している」という場合は、英語で残す方がよいでしょう。一方、マニュアル上で説明のために独自に追加されているコメントは訳す方がよいでしょう。

- コマンド名
- 引数名
- 関数名
- 変数名
- ファイル名、ディレクトリ名、ライブラリ名
- プログラミング言語の名称
- パート番号 (Part 1、Part 2 などの表記)

注ー上記のコマンド名、引数名、ファイル名、ディレクトリ名、ライブラリ名などはクーリエフォント、変数名はイタリックフォントにします。

文体

本文

特に指定がない限り「です・ます」調で統一します。

ただし、文体が「です・ます」調でも、文の途中で「である」調にした方が適切な場合には「である」調を使います。次に例を示します。

(誤)　ローマ字/かなキーを押しますと、変換状態表示が混乱します。

↓

(正)　ローマ字/かなキーを押すと、変換状態表示が混乱します。

「です・ます」調を使うときは、口語調の表現で全体を統一します。次に例を示します。

(誤)　本製品をご使用前に、『ご使用にあたって』をお読みください。

↓

(正)　この製品を使用する前に、『ご使用にあたって』をお読みください。

丁寧語や能動態などの文体の使い方については、17 ページの「文体を統一する」を参照してください。

章、節、項のタイトル

特に指定がない限り、章タイトルは「体言止め」、節や項のタイトルは「である」調または「体言止め」で統一し、句点は打ちません。

次に訳例を示します。

英語例	翻訳例
Preface	はじめに
Glossary	用語集
Audience、Who Should Use This Book など、そのマニュアルの対象読者を記載している項の表題	対象読者
Assumptions、Before You Read This Book など、そのマニュアルを理解するための前提条件を記載している項の表題	お読みになる前に
Book Organizations、How This Book Organized	内容の紹介

英語例	翻訳例
など、そのマニュアルの内容構成を記載している項の表題	
Conventions、What Typographic and Symbols Mean など、そのマニュアルが従っている表記上の規則を記載している項の表題	表記上の規則
Further Documentaion、Related Books、Referenced Documents など、そのマニュアルに関連するマニュアルを記載している項の表題	関連マニュアル
General Information、Overview	概要
Limitations	制限事項

箇条書き

手順など、ユーザーの操作を示す箇条書きは、基本的に「です・ます」調で統一します。次に例を示します。

Perform the following procedure.

次の手順に従います。

1. Copy the provided font file to your personal environment.

   提供されているフォントファイルを個人環境にコピーします。

2. Convert font file into format file.

   フォントファイルをフォーマットファイルに変換します。

簡潔さが必要な、項目の列挙などの箇条書きは、必要に応じて「だ・である」調にしてください。

Major purposes of this guideline are as follows:

このガイドラインの主な目的は、次のとおりです。

1. Improve the translation quality.

   翻訳品質を向上させる。

2. Enhance the translation efficiency.

   翻訳効率を向上させる。

3. Improve the translation reusability.

   翻訳の再利用率を向上させる。

ユーザーへの依頼および指示

ユーザーに何らかのことを促す場合は、「〜してください」、「しないでください」という表現を使用します。

丸括弧 ( ) 内

丸括弧 ( ) 内に含まれる文体は、「である」調または「体言止め」で統一します。

また、できるだけ丸括弧 ( ) を外して別の文にするよう工夫してください。詳細は、23 ページの「丸括弧 ( )」を参照してください。

句点の打ち方については、次の項目を参照してください。

- 1 つの文中に含まれる丸括弧 ( ) 内の表記には句点は打ちません。丸括弧 ( ) に複数の文が含まれる場合には、各文の間にだけ句点を打ちます。次に例を示します。

ホームディレクトリ (変数 $HOME で指定したもの) にファイルが作成されます。

・登録プロパティー (登録プロパティーのリスト。詳細については、仕様を参照)

- 丸括弧 ( ) 内の表記が、直前の単語だけでなく複数の単語や文にかかる場合には、次のように句点を打ちます。

コマンドの最初の文字を表すために 1 文字のコマンドを使用しないでください (print に対する p など)。

表の中の文

表の中の文は、できるだけ簡潔に翻訳しますが、「である」調ではなく「です・ます」調にして、句点の有無は英文と同じにします。

注 – 翻訳結果を翻訳メモリーに戻して、別の翻訳で流用したときに英語と日本語の間で不一致が発生しないよう、上記の方針にしています。再利用を考慮しない場合は、上記方針は使用しなくてもかまいません。

次に表の例を 2 つ示します。

表 1-1 OpenWindows のディレクトリ (例)

ディレクトリ	内容
`/bin`	OpenWindows の実行可能ファイル。
`/demo`	OpenWindows のデモンストレーションプログラム。
`/dummy`	ダミーファイル、ユーザー用ファイル。

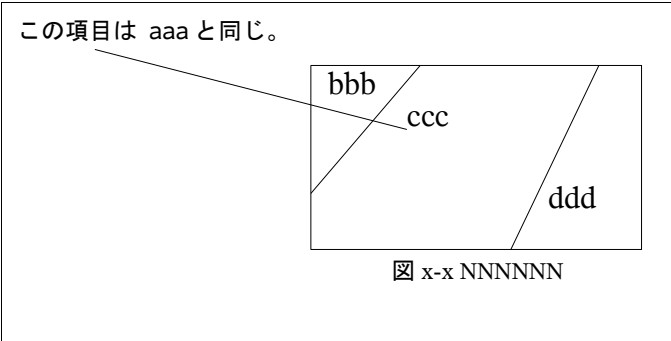
表 1-2 `/cdrom/solaris` ディレクトリの内容 (例)

バグ ID	バグの内容
`1111111`	PASCAL サブルーチンへの最初のコールで、デバッガがエラーを起こします。
`2222222`	dbx にエラー処理構造体があります。たとえば aaa、bbb など。

図の中の説明

図の中の項目に対して引き出し線をつけて説明している部分は、「である」調または「体言止め」で統一します。句点の有無は、英文と同じにします。

次に例を示します。

図 x-x NNNNNN

文体を統一する

能動態と受動態

基本的に、英文と同じ態を使用するようにしてください。

ただし、能動態にした方が文章がわかりやすくなる場合は、英文が受動態でも能動態の表現にします。

態を変えた方がよい例

If this command is entered, all of the files will be listed.
(誤)　このコマンドが入力されると、すべてのファイル名が表示されます。
↓
(正)　このコマンドを入力すると、すべてのファイル名が表示されます。

The System is stopped while patches are applied.
(誤)　パッチの適用中は、システムは停止されます。
↓
(正)　パッチの適用中は、システムは停止します。

The features implemented by Solaris 10 include:
Solaris 10 が実現する機能には、次のものがあります。

英文と同じ時制を使う

できるだけ英文と同じ時制を使います。次に例を示します。

"Could not open document '%s'."
(誤)　"ドキュメント '%s' を開くことができません。"
↓
(正)　"ドキュメント '%s' を開くことができませんでした。"

丁寧語を使う

本文中では丁寧語を使用します。尊敬語や謙譲語などの必要以上に丁寧な表現は使用しないでください。

注ーマニュアル中の「はじめに (Preface)」や、ニュースレターなどのユーザーに直接問いかけるような文章で、「〜をお読みください」、「〜をご覧ください」、「〜をご利用ください」、「ご使用の〜」、「〜にお問い合わせください」などの尊敬語を使った表現のほうがよいと判断される場合は、尊敬語を使用してもかまいません。

次に例を示します。

使わない表現	適切な表現
〜をよく読んでください	ーを注意深くお読みください
〜をご利用ください	〜を使用してください

使わない表現	適切な表現
〜を説明いたします	〜を説明します
ご使用の〜、お使いの〜	使用している〜、使用中の

同じ表現を使う

■ 文末または導入部の表現を統一します。ただし、文末に同じ表現が繰り返し続くときは、不自然にならないように工夫してください。次に、目安として役立つように、翻訳例を示します。実際の翻訳では、本文の意図に沿った訳にしてください。

意味	英語表現の例	日本語表現の例
強い指示・要求	be sure to、make sure、ensure	必ず〜してください、〜する必要があります
指示・要求	must[1]、please、have to、その他の命令文	〜します、〜してください
提案・推奨	should[2]、recommended	〜するべきです、〜するべきではありません、〜するとよいでしょう、〜することをお勧めします、ーするようにしてください
推量	should	ーするはずです (例: the dialog should appear: ダイアログが表示されるはずです)
強い禁止	must not、should never be、never	〜してはいけません、決して〜しないでください 注: 使用しない表現「〜してはなりません」
弱い禁止	do not、is not、may not	〜しません、〜しないでください、〜 (では) ありません
許容	can、may be	〜してもかまいません
可能	can、is able/possible to	〜できます
不可能	cannot be、may not	〜できません
可能性	can、may be、might be、possible	〜の可能性があります、〜の場合があります、〜こともあります
導入	The following shows	〜は次のとおりです、次に〜、次の〜 注: 「以下」は、基本的に使用しない (ページの構成により、対象が「以下」の位置ではなくなることがあるため)

1 should と must では、強制の度合いが異なります。必ず訳し分けるようにしてください。

2 人を主語とする文章などで「するべき」を使用すると威圧的な文章になる場合は、「ーしてください」、「〜するとよいでしょう」、「〜することをお勧めします」、「ーするようにします」を使用します。

■ 同じ動作の表現は同じ動詞で統一します。

次に例を示します。

(誤)　宛名データを作成する場合は 3 を選び、一般データを作る場合は 4 を選択します。
↓
(正)　宛名データを作成する場合は 3 を選択し、一般データを作成する場合は 4 を選択します。

(誤)　作成した文書を表示したり印刷するときは、次の操作を行います。
↓
(正)　作成した文書を表示したり印刷したりするときは、次の操作を行います。

- 箇条書きの場合は、できるだけ同じ表現に統一します。

次に例を示します。

(誤)　変更内容を適用するには、「了解」を押します。 「取消し」を押すと、変更内容を取り消します。
↓
(正)　変更内容を適用するには、「了解」を押します。 変更内容を取り消すには、「取消し」を押します。

- 「man page」の訳し方を次のいずれかに統一します。

See the mountall(1M) man page.
↓
mountall(1M) のマニュアルページを参照してください。

See man Pages(1M):System Administration Commands.
↓
『SunOS Reference Manual』のセクション 1M「System Administration Commands」を参照してください。

- 不明な点に関する問い合わせ先は「ご購入先」とします。次に訳例を示します。

If you have problems installing or using Solaris 2.2, call your authorized service provider.
↓
Solaris 2.6 のインストール中または使用中に問題が発生した場合は、ご購入先に連絡してください。

you、your、users などは訳しません。訳す必要がある場合は、「ユーザー」とします。次に訳例を示します。

You can add as many dist_type definitions to the data file as you want.

↓

disk_type 定義はデータファイルに、いくつでも追加できます。

■ 代表的な翻訳例をまとめます。参考にしてください。

英語	翻訳例
〜 above	前述した〜 先に述べた〜
〜 describe(s)	〜について説明します。 〜について記述します
every time 〜	〜するたびに
For more information 〜 For further information 〜 For further details 〜	〜については、 詳細は、
〜 is recommended that 〜 We recommend that 〜	〜をお勧めします。 〜してください
List	(名) リスト (動) 〜を一覧 (表示) します
Note that 〜	〜してください。 注: 「注意してください」は、本当に大切なところや間違えると被害を与える恐れがある場合にだけ使ってください。
refer to 〜	〜を参照 〜を参照してください
See 〜	〜を参照 〜を参照してください
Using 〜	〜の使用法
The following 〜	次の〜 (「以下」とは、しない) ただし、単純に「次」とすると不自然になる場合があります。その場合には、次のように言い換えてください。 - 対象が複数ある場合: in the following tasks: 次に示す作業で、... - 主語として「次」だけでは不自然な場合: The following shows how to ...: 次の内容は、... を行う方法を示します。 The following takes place when ....: .... の場合は、次のことが発生します。 上記の主旨は「ページのレイアウトの関係で「下」にならない場合でも対応できるように、「以下」ではなく「次」を使用する」というもので、訳を厳密に定義するものではありません。したがって、この主旨にあるものであれば、上

英語	翻訳例
	記以外の訳でも使用可能です。
Dependence	制約
Diagnostics	診断
Tips	ヒント

■ 手順の記述に関して

章、節などのタイトルの場合、「～する」と訳します。

To create new files

↓

新しいファイルを作成する

タイトルではなく、手順の上の記述で、follow ...、 perform ... などの主節がなくコロン「:」で文末が終わっている場合には「～するには、次の手順に従います。」と文章を補って訳します。

次に例を示します。

To Search by resource:
1) Click to select the search type.
2) Select a resource.
3) Click Search.

↓

リソースにより検索するには、次の手順に従います。
1. 検索の種類をクリックして選択します。
2. リソースを選択します。
3. 「検索」をクリックします。

■ 変数の説明の前の Where : について

Where: は、「ここで、」と訳されていることがありますが、このような文が完結しない訳し方は避けてください。次に例を示します。

```
Create LDAP service principal in Kerberous with a session key:
ldap/serverHostname@Realm.
Where:
- The serverHostname is the fully qualified domain name of the server host machine.
- The Realm is the Kerberos Realm of your server.
(誤) セッション鍵を使用して、LDAP サービス主体
    (ldap/serverHostname@Realm) を Kerberos に作成します。
    ここで:
    - serverHostname は、サーバーホストマシンの完全修飾ドメイン名です。
    - Realm は、サーバーの Kerberos Realm  です。
                ↓
(正) セッション鍵を使用して、LDAP サービス主体 (ldap/serverHostname@Realm)
   を Kerberos に作成します。
    各表記の意味は次のとおりです。
   - serverHostname は、サーバーホストマシンの完全修飾ドメイン名です。
   - Realm は、サーバーの Kerberos Realm  です。
```

記号の使い方

鍵括弧「」

鍵括弧「」は、文中に他の語句や文を引用するとき、本やマニュアルの章、節、および項のタイトルを引用するとき、画面上のメニュー名や、操作ボタン名、日本語メッセージを示すとき、あるいは特定の語句を強調したいときに使います。また、引用符号「” 」、「 ’ 」の代わりにも必要に応じて使います。

注意 – コマンドやプログラムの中、およびメッセージの変数 ("%d" など) で引用符号「” 」、「 ’ 」が使われている場合は例外です。英語の引用符号をそのまま使用します。

二重鍵括弧『』

二重鍵括弧『』は、本の題名を示すときに使います。

丸括弧 ( )

丸括弧 ( ) は、文中で補足、注釈、言い換えをするときに使います。

本文中では、できるだけ丸括弧 ( ) を使って文を挿入しないでください。丸括弧

( ) を外し別の文にするよう工夫してください。

次に例を示します。

ファイルが存在しない (つまり ls -a コマンドで表示されない) 場合は、何もする必要はありません。 ↓ ls -a コマンドで表示されない場合は、ファイルは存在しません。その場合は、何もする必要はありません。

ただし、次のような場合には、丸括弧 ( ) を使って文を挿入してもかまいません。

- 参照する箇所を文の最後に入れる場合

「了解」を押すと、ダイアログボックスが表示されます (図 1-1 を参照)。

丸括弧 ( ) 内の文体と句点の付け方については、16 ページの「丸括弧 ( ) 内」を参照してください。

- 丸括弧 ( ) 内の語句をさらに括弧でくくる必要がある場合、特に指定がない限り丸括弧 ( ) を使います。

次に例を示します。

セミコロン (;) を選択します (デフォルトはコロン (:))。

角括弧 [ ]

丸括弧 ( ) を含む語句、文を外側から囲むときに使いますが、複雑になるのでなるべく使わないように工夫してください。

波ダッシュ「〜」

波ダッシュ「〜」は、範囲を示すときや、文の一部を省略するときに使います。 範囲を示す場合は、原則として最初の数値の単位を省略します。

次に例を示します。

1994 〜 1996 年、200K 〜 250K バイト

注 – 37 ページの「数字の表記」を参照してください。

コロン「:」

コロン「:」は基本的には日本語の文章には使用しません。文末にコロンが使われている英文を翻訳するときには、そのコロンの意味を翻訳します。言葉を補う場合は「つまり」などと訳すか、特に補う必要がない場合は「。」で文章を終了します。

次に例を示します。

Run the following command from the local directory:
> ./setup

↓

ローカルディレクトリから次のコマンドを実行します。
> ./setup

Authentication Question Policy -- Select a policy to apply when authenticating users:
All - Users must answer all questions.
Any - Users must answer n questions, specified by the value of the Minimum Number of Questions User is Required to Answer field.

↓

認証質問ポリシー - ユーザーの認証時に適用するポリシーを選択します。
すべて - ユーザーはすべての質問に答える必要があります。
いずれか - ユーザーは、「ユーザーが回答する必要がある質問の数」フィールドの値で指定された n 個の質問に答える必要があります。

ただし、次のような場合は例外です。

■ 例を表す場合

例:

■ 簡潔に場合分けなどを示す場合、次にコマンド、マニュアル名、URL を示す場合

Here are some of the commonly used commands:
Solaris: pkginfo
Linux: rpm

↓

一般に使用されるコマンドは次のとおりです。
Solaris の場合: pkginfo
Linux の場合: rpm

You can access the following URL: http://docs.sun.com

↓

次の URL にアクセスしてください: http://docs.sun.com

■ GUI など項目の説明を記述する場合

あとで設定: パッケージのインストールに必要な値を入力します。

■ メッセージでは、基本的には「:」は残します。これは「:」の後ろにどのような単語を組み合わせて使用するのか、翻訳時にはわからないためです。

```
"%s: Cannot open temp file: %s\n"
"%s: 一時ファイルを開くことができません: %s\n"
```

商標マーク

英文マニュアルの本文で商標マーク (®、™ など) を使用している場合は、英文の方針に従います。

単位

単位の表記には単位記号を使います。ただし、ビット、バイト、外国通貨、時間、角度、概数、成句の単位は例外です。詳しくは、次の節を参照してください。

次に単位記号を使う例を示します。

```
80 kg、50 Hz、162 cm、300 g、2 m
```

ビットとバイトの表記

コンピュータの記憶単位であるビットとバイトは、「英字略記」と「カタカナ」の組み合わせで表記します。情報量の単位である「K」は、2 の 10 乗を指します。「k」と区別して使ってください。

次に例を示します。

```
ビット、バイト、K バイト、M バイト、G バイト、250K バイト
```

注 — ビット、バイトなどの単位を表す英字の略記 K、G などとその前の数字の間にはスペースは入れません。

次に例外を示します。

英文マニュアルでの表記	日本語マニュアルでの表記
bit/second、bits per second	bps
k-bytes/second、kilobytes per second	kbps

数字の表記

漢数字 (一、二、三) が慣用的に使われている場合を除いて、数字には算用数字 (1、2、3) を使います。詳細は、第 2 章 37 ページの「数字の表記」を参照してください。

使わない符号・単位

■ 感嘆符「!」

感嘆符が使われている英文を翻訳する場合は、特に問題がないかぎり感嘆符を無視して翻訳してください。

■ セミコロン「;」

セミコロンが使われている英文を翻訳する場合は、必要に応じてそのセミコロンの意味を翻訳してください。

■ 疑問符「?」

疑問符が使われている英文を翻訳する場合は、「〜とは」のように書き換えてください。

注ー メッセージの場合には、英文と同じく疑問符「?」はそのまま使用します。

■ 斜線「/」

斜線が使われている英文を翻訳する場合は、その斜線の意味を翻訳してください。

次に例を示します。

英文マニュアルでの表記	日本語マニュアルでの表記
A and/or B	A または B、あるいはその両方

次のような場合は例外です。
- ■ 分数を行の中で使う場合
- ■ 単位記号の中で使う場合
- ■ CAD/CAM、I/O のような慣用語句
- ■ 書き換えによって文章が冗長になってしまう場合
  次に例を示します。

```
各グループに書き込み/読み込みのアクセス権を設定します。
```

第 2 章

翻訳のヒント

この章では、わかりやすい日本語にするためのヒントを紹介します。第 1 章で挙げたルールについての詳しい説明もあります。

わかりやすい文を書く

漢字を多くしない

漢字の比率は、なるべく全文字数の 30 % 前後になるように工夫してください。基本的には動詞と名詞に漢字を使い、その他はひらがなにします。

文を必要以上に長くしない

一文の長さは 50 文字以内を目安にします。長い文は途中で区切って 2 つの文に組み立て直すか、表現を変えて短い文にします。

注 – 翻訳メモリーを使用する場合は、できるだけ「1:1」対応の訳になるようにしてください。文を分ける場合、「英語」対「日本語」を、1 対「多」の関係にすることは可能です。つまり、英語一文に対して、日本語を二文以上に分けることはできます。しかし、「多」対「多」や「多」対 1 という対応にしてしまうと、再利用した場合に問題が発生します。

主部と述部を近づける

主部と述部はできるだけ近づけて、係り受けの関係をはっきりさせます。

次に例を示します。

(誤)	ファイル A は、ファイル B を削除してファイル C に置き換えないかぎり、使用できません。
	↓
(正)	ファイル B を削除してファイル C に置き換えないかぎり、ファイル A は使用できません。

必要に応じて語句を補う

動詞の連用形や「が」などの助詞を使って節と節を接続した場合、節と節の関係がはっきりしないときは必要に応じて語句を補って、文章が正確でわかりやすくなるように工夫してください。ただし、英文から明瞭に因果関係が汲み取れない場合は、無理に想像や推量をせず、そのまま英語通りに訳してください。過度な表現は避けるべきですが、必要に応じてユーザーの注意を引く表現も必要となります。

次に例を示します。

(誤)	標準インタフェースを使い、互換性を向上できます。
	↓
(正)	標準インタフェースを使用しているため、互換性が向上します。

(誤)	このプログラムはシグナルを受け取り、動作を中断します。
	↓
(正)	このプログラムはシグナルを受け取ると、動作を中断します。

修飾語句を適切に並べる

修飾語句は、文字数の多いものから順番に並べて、修飾する語句に近づけます。

次に例を示します。ただし、例の中の「/」は、語句の区切りを示すために使用しているもので、実際の翻訳では使用しません。

(誤)	柔軟な/最新のテクノロジを結集した/設計
	↓
(正)	最新のテクノロジを結集した/柔軟な/設計

読点を適切に打つ

読点は次の内容を参考にして、文章が正確でわかりやすくなるように打ちます。

■ 修飾語句の係り先を明確にする

管理ツールの、新しい GUI 対応機能

- 目的語の係り先を明確にする

ドライブ A にコピー元のフロッピーディスクを、ドライブ B にコピー先のフロッピーディスクを入れます。

- 対等に並べた語句を修飾する

業界標準のプロトコル、TCP/IP と PPP は ...

- 漢字やひらがなの読み誤りや読みにくさを避ける

このプログラムを実行後、初期設定を行います。

- 主語を明確にする

grep コマンドは、正規表現を使ったパターンの検索にも利用できます。

- 文頭に置く接続詞や、理由や条件を示す語句を区切る

したがって、次のように入力します。 プロセスを終了するには、次の手順に従います。

- 連用形を区切る

ファイルの内容を入力し、出力します。

- 接続詞「または」と「および」を区切る (語句が 3 つ以上あるとき)

Bourne シェル、C シェル、または Korn シェルを利用できます。

簡潔な表現を使う

まわりくどい言い回しや誤解を生みやすい用語は、次のいずれかの方法で書き換えて、簡潔な表現になるよう工夫してください。

- 不要な語句を省きます。
  次に例を示します。

冗長な表現	簡潔な表現
2 種類の異なった方法で	2 種類の方法で
まず最初に	最初に、まず
一方においては	一方
コピーすることができます	コピーできます
削除するようにします	削除します
その結果として	その結果
制御するということが必要です	制御が必要です
どういうふうに〜	どう〜

冗長とされる上記の表現でも、文脈によっては使用した方がよい場合もあります。

次に例を示します。

> デフォルトでは、パフォーマンスメーターはパフォーマンスのグラフを横方向に並べて表示します。監視するパラメータ数、デスクトップの利用可能なスペースによっては、パフォーマンスのグラフを縦方向に表示することもできます。

- 不要な接続詞を省きます。
  次に例を示します。

> (誤) 削除命令を実行します。そして、メッセージが削除されます。そして、再度削除命令を実行すると、...
>
> ↓
>
> (正) 削除命令を実行すると、メッセージが削除されます。もう一度削除命令を実行すると、...

- 冗長な表現を簡潔にします。
  次に例を示します。

冗長な表現	簡潔な表現
コアダンプすることがありえます	コアダンプすることがあります
処理するわけです	処理します
述べることにします	述べます
効果的に使う目的で	効果的に使うために
必要であるといえます	必要です
特長としています	特長です
説明していきます	説明します
制御を行います	制御します

- 誤解を生みやすい表現を書き換えます。
  次に例を示します。

誤解を生みやすい表現	書き換えた表現
1 か月おきに	2 か月に 1 度
ハードディスクのように速くありません	ハードディスクと違って速くありません

■ 意味が重複した表現は使いません。
次に例を示します。

意味が重複した表現	簡潔な表現
20 〜 30 % 程度	20 〜 30 %
約 100 m ほど	約 100 m、100 m ほど
各ファイルごとに	ファイルごとに、各ファイルに
従来から	従来
数値の値	数値
〜だけに限ります	〜だけです。〜に限ります
たとえば、〜はその例です	〜は、その例です
〜にだけ固有の	〜に固有の
大別すると 3 つに分けられます	大別すると 3 つになります
未だ未定です	未定です

■ 1 文内で同じ用語は重複して使いません。
次に例を示します。

(誤) rm コマンドは、ファイルを削除するためのコマンドです。

↓

(正) ファイルを削除するには、rm コマンドを使います。

文語調を使わない

文語調は口語調に言い換えて、なるべく使わないでください。次に例を示します。

文語調の表現	口語調に言い換えた表現
いかなる	どのような
いかにして	どのようにして
おのおの	それぞれ
〜か否か	〜かどうか
〜せぬ	〜しない
ないし、もしくは	または
ならびに	と、および
〜において	〜で

文語調の表現	口語調に言い換えた表現
〜における	〜に対する、〜での
〜につき	〜について
〜にて	〜で
〜を以って	〜で、〜を使って
〜を有する	〜を持つ、〜を備える
本システム	このシステム
本章	この章
本ソフトウェア	このソフトウェア
当該	この、該当する、適切な

話し言葉を使わない

話し言葉は使わないでください。次に例を示します。

使わない表現	適切な表現
意外に	予想以上に
だから	したがって
ちょっと	少し
やっぱり	やはり
どれか	いずれか、どちらか
よく読んで	注意深く読んで、熟読して、参照して
したいときは	するときは
... するのは、	... することは、

- want to 〜、wish to 〜などは「〜したいときは」とはせずに、「〜するときは」と訳してください。

> If you want to install all components, you must select All from the menu.
>
> (誤) すべてのコンポーネントをインストールしたい場合は、メニューから「すべて」を選択する必要があります。
>
> ↓
>
> (正) すべてのコンポーネントをインストールする場合は、メニューから「すべて」を選択する必要があります。

適切な接続表現を使って語句を並列させる

語句を 3 つ以上並列するときは、最後の語句の前にだけ「および」や「または」を付け、「および」や「または」の前に読点を打ちます。ただし、最後の語句のあとに「など」や「その他」が続く場合は、「および」や「または」は使いません。

次に例を示します。

使わない表現	適切な表現
カット、コピーおよびペースト	カット、コピー、_およびペースト
カット、コピー、またはペーストなど	カット、コピー、ペーストなど

範囲を示す用語を使い分ける

範囲を示す英語の用語には、基準の数値または事柄を含むものと含まないものがあります。訳す場合注意してください。

次に例を示します。

- 基準の数値または事柄を含む

～or more (以上)、～or less (以下)、～or earlier (以前)、～or later (以後)、within ～ (以内)、since (以降、から)、until (まで)、including ～ (をはじめ)、など

- 基準の数値または事柄を含まない

before (～前)、after (あと、～後)、over、more than (～を超え)、less than (～未満)、other than (ほか)、など

注ーmore than、less than など「～以上」、「～以下」と誤訳される場合が多いので、翻訳の際には注意してください。

「非...」を乱用しない

「非...」で始まる言葉は、できるだけ使わないでください。なお、世間一般に用語として成り立っているものはこの限りではありません。

次に例を示します。

使わない表現	適切な表現
非 ASCII 文字	ASCII 以外の文字

「場合」と「とき」を使い分ける

「～の場合」の中にさらに別の条件がある場合は、含まれる条件に「とき」を使います。単独で使う場合は、「場合」を「とき」に言い換えたり、別の語に置き換えたりすることもできます。

次に例を示します。

改版翻訳の場合で旧和文が『日本語スタイルガイド』を参考にしていないときは、マニュアル全体として問題が生じないように対処してください。

用字用語の使い方

漢字の使い方

常用漢字表 (付表を含む) に従います。

常用漢字表にない読み方の語は、原則としてかな書きにします。読みにくくなる場合や意味がわかりにくくなる場合、あるいは固有名詞や専門用語などは、交ぜ書きにするか、常用漢字以外の字を使います。略字や俗字は使わないでください。

次に、常用漢字表にない読み方の語、常用漢字以外の字を使うほうがわかりやすい語、略字や俗字を使っている語の例を示します。

■ かな書きまたは交ぜ書きにする語

使わない表現	使う表記
全て	すべて
且つ	かつ
但し	ただし
予め	あらかじめ
凡そ	およそ

■ 常用漢字以外の字を使う語

使わない表現	使う表記
だ円	楕円
けた数	桁数
こん包	梱包

■ 略字や俗字を使わない語

使わない表現	使う表記
12 頁	12 ページ
午后	午後

同音異義語・同訓異字

同音異義語・同訓異字などの使い方は、『朝日新聞の用語の手引』を基準とします。

次に誤りやすい例を示します。

使わない表現	使う表記
両者を合わせて検討する	両者を併せて検討する
欠陥が表れた製品	欠陥が現れた製品
マニュアルを改定する	マニュアルを改訂する
利益を納める	利益を収める
元の状態に快復する	元の状態に回復する
協同で作業する	共同で作業する
基準値を越える	基準値を超える
目次を作製する	目次を作成する
これらのシステムの機能は対称的だ	これらのシステムの機能は対照的だ
作業の実体	作業の実態
プログラムの修整	プログラムの修正
原因を追求する	原因を追及する
発生した障害に対して一切の保障をいたしません	発生した障害に対して一切の補償をいたしません
機能を保障する	機能を保証する

送りがなの付け方

『送り仮名の付け方』 (昭和 48 年 6 月 18 日内閣告示第二号、昭和 58 年 10 月一部改定) 本則と、通則 7 の慣用に従います。 詳細については、付録 A「送りがなの付け方一覧」を参照してください。

参考文献
文化庁国語課監修『新版現行の国語表記の基準』ぎょうせい、1990 年

漢字とかなの使い分け

原則として名詞と動詞には漢字を使い、接続詞、連体詞、助動詞、補助動詞、助詞、連語、形式名詞、接頭語、接尾語はかな書きにします。代名詞と副詞には、やさしい漢字で読みやすい語の場合は漢字を使います。詳細は、付録 B「漢字とかなの使い分け一覧」を参照してください。

次に漢字とかなの使い分けの例を示します。

指示に従って操作する。(動詞)
したがってバグが多い。(接続詞)

Solaris 2.6 をリリースした時から〜 (時間) このソフトウェアをインストールするときは〜 (条件)

数字の表記

漢数字が慣用的に使われている場合を除いて、数字には算用数字を使います。

次に、漢数字を使う例を示します。

■ 熟語・成句

二重括弧、一番目、一般に、十分

■ 概数、紙幣・貨幣の額

数十回、一万円札、五百円硬貨

数の範囲には、全角の波ダッシュ (〜) を使います。単位は誤解される恐れがない場合は、原則として終点の数値だけに付けます。

次に例を示します。

30 〜 50%、2 〜 3 回、15 〜 18 ページ

注 – メッセージでは、全角の波ダッシュ (〜) を使用すると、文字化けしたり問題が発生したりすることがあります。「30% から 50%」または「30% - 50%」など、そのメッセージの中で統一した別の表記方法を使用してください。

英文の表記

日本語マニュアルの中で英文を使うのは、次の場合に限ります。

■ 略語やカタカナ表記を補足説明する

Solaris 共通デスクトップ環境 (Common Desktop Environment、CDE)

■ 画面やキーボード上の表示を引用する

Control キー、「終了 (Quit)」ボタン、「ブラウズ (Browse)」メニュー

■ 記号、コマンド名、または変数名を記述する

10 cm、mv コマンド、環境変数 DISPLAY

■ 英文表記が定着した略語、または英文表記の固有名詞を記述する

ASCII コード、OpenWindows 環境、X Window System

次に、英文を乱用した例と、それを修正した例を 2 つ示します。

(誤)　使用するプリンタに正しい用紙が set されていることを確認します。
↓
(正)　使用するプリンタに正しい用紙が設定されていることを確認します。

(誤)　画面に Password: と表示されたら、Password を input します。
↓
(正)　画面に Password: と表示されたら、パスワードを入力します。

その他の表記

商標は訳さない

商標は、どのような場合でも元の表記のまま残す必要があります。商標とは、一般的に製品や技術の名前であることが多く、その表記の右肩には ®、™ などの記号が付いています。ただし、記号が付いているのはドキュメント内に初めて記載される場合のみで、2 回目以降には付いていない場合があります。このような場合も、同じ表記は商標として扱う必要があります。次に例を示します。

This product is based on Java™ Technology. Java Technology enables the software to operate on any platform.
↓
本製品は、Java™ テクノロジをベースとしています。Java テクノロジによって、ソフトウェアはプラットフォームに関係なく動作することができます。

注 – ただし、商標マーク (®、™ など) の有無は、英文の方針に従います。

Sun の場合、製品およびテクノロジが商標を指すかどうかは、次のようにして調べます。

- 次の URL にアクセスして、対象の文字列を検索します。

```
http://www.sun.com/suntrademarks/
```

上記で見つからないが、懸念がある場合は、Sun の担当者まで問い合わせてください。

マニュアルのタイトルを訳す

翻訳対象の文字列の中にマニュアルのタイトルやコレクション名が含まれている場合は、それらの日本語名がすでに存在するかどうかを次の方法で調べます。

1. マニュアルのタイトルを含むリストが提供されている場合は、該当するタイトルが含まれているかどうかを調べて、あればその名前を使用する。
2. 上記に含まれていない場合、または、リストが提供されていない場合は、`http://docs.sun.com` および SunDocs (http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs) で該当するマニュアルがあるかどうかを調べて、あればその名前を使用する。
3. あらたに翻訳する場合は、各プロジェクトの方針に従って翻訳案を作成する。

   Sun のマニュアルタイトルの翻訳方針は、次のとおりです。不明な場合は、Sun の担当者に連絡してください。

マニュアルタイトルの翻訳方針:

- **ハードウェア製品の場合:**

  Getting Started Guide: ご使用の手引き

  Release Notes / Product Notes: ご使用にあたって

  Site Planning Guide: サイト計画の手引き

  Installation Guide: 設置マニュアル

  ... Server/System Administration Guide: ...サーバー/システム管理マニュアル

- **Solaris の場合:**

  What's New in ...: ... の新機能

  Release Notes: ご使用にあたって

  System Administration Guide: Solaris のシステム管理

  ... Administration Guide: ... の管理

- 上記以外の製品の場合:

  Release Notes: リリースノート

  User's Guide: ユーザーズガイド

  User's Manual: ユーザーズマニュアル

  Installation Guide: インストールガイド

Programmer’s Guide: プログラマーズガイド

Programming Guide: プログラミングガイド

Developer’s Guide: 開発者ガイド

Development Guide: 開発ガイド

Administrator’s Guide: 管理者ガイド

Administration Guide: 管理ガイド

Reference Manual: リファレンスマニュアル

Reference Guide: リファレンスガイド

Getting Started Guide: 入門ガイド

索引を訳す

索引は次のように翻訳します。英文の語句がコンマで区切られている場合は、日本語の語句を読点で区切ります。

Starting the server ↓ **サーバーの起動**

Server, starting ↓ **サーバー、起動**

専門用語を訳す

専門用語を訳す場合、原則として専門用語集 SunGloss の訳語を使用してください。プロジェクトに固有の用語集がある場合は、その用語集を優先してください。 専門用語に対して 既存の用語集にない訳語を使用する場合は、担当者に用語案と用語の意味を送付してください。専門用語を新しく翻訳する場合、カタカナ語として定着しているものを除いて、なるべく意味を的確に表す日本語に訳してください。

注意 – 用語集に従うことで、文脈や分野によっては不都合が生じる場合は、適切な訳語を使用して、その旨をプロジェクト担当者に連絡してください。

カタカナ語の表記方法については 11 ページの「カタカナ語」、中点「・」の使い方については 12 ページの「中点「・」」を参照してください。

固有名詞を訳す

固有名詞は原則として翻訳します。正確な情報を確認して翻訳してください。

人名と本のタイトルおよび出版社名は例外です。詳しくは、42 ページの「本のタイトル、出版社、および人名」を参照してください。

社外で作業を行なっている場合、各種機関、Sun に問い合わせた結果、正式な名称および読み方が確認できないときは英文のまま残します。Sun の担当者は、必要に応じて法務に問い合わせて対応してください。

注 – 英語の表記で商標となっているものは、原則として翻訳しません。ただし、日本語として十分定着している用語は日本語に翻訳します。

次に固有名詞の訳し方の例を示します。

英文マニュアルでの表記	日本語マニュアルでの表記
Berkley	バークレー
OpenWindows	OpenWindows
Solaris	Solaris

製品名は訳さない

製品名は固有名詞として扱い、翻訳しません。製品名の定義は、次のとおりです。

1. 大文字で始まる単語、または、その集合である。
2. 商標として登録されている名前の一部である。

次に例を示します。

```
翻訳しない (固有名詞):
Java Desktop System Configuration Manager
Configuration Manager
Java Enterprise System Directory Server
Directory Server


翻訳する(一般名詞):
a configuration manager → 設定マネージャー
a directory server → ディレクトリサーバー
```

表記自体は大文字で始まらなくても、製品名を指すと想定できる単語は、製品名として扱います。たとえば、次のような例では、1 つめの Directory Server は製品名として日本語にはせず、2 つめの a directory server は一般名詞として日本語にします。It および the directory server は、どちらも製品名を指すものとして、日本語にはしません。

Directory Server is a directory server which provides robust mechanism to all enterprise users. It helps the users to work effectively in the enterprise environment. While the users are not aware, the directory server serves in many ways for effective access to various filesystems.

Directory Server は、すべてのエンタープライズユーザーに堅牢なメカニズムを提供するディレクトリサーバーです。Directory Server の支援によって、ユーザーは、エンタープライズ環境で効率的に作業することができます。ユーザーが気づかないうちに、Directory Server は、各種のファイルシステムに効果的にアクセスできるようにさまざまな方法でサービスを提供しています。

本のタイトル、出版社、および人名

本のタイトル、出版社、および人名は翻訳しません。ただし、日本語版に翻訳されている場合は、日本語版のタイトルと出版社を使います。市販されている本の場合は、各種書店のホームページで日本語版が出版されていないかどうかを確認してください。

次に例を示します。

日本語版がある場合:『Motif プログラミング・マニュアル』、Dan Heller 著、ソフトバンク発行、1992

日本語版がない場合:『Motif Reference Manual』、Paula Ferguson 著、O ı Reilly&Associates 発行、1992

会社名を訳す

「Sun Microsystems, Inc.」や「Sun」などの Sun の会社名は、文脈で問い合わせや連絡先として指定されている場合、「ご購入先」と翻訳します。その他の場合は、次の項を参考にして翻訳してください。

参考資料

登記されている社名の場合は、登記上の正式社名を表記します。明確に日本におけるオペレーション名を意味する場合は、そのオペレーション名を表記します。

注 – 次に示すオペレーション名は、2004 年 8 月現在のものです。

正式社名	日本におけるオペレーション名
米国 Sun Microsystems, Inc.	サン・マイクロシステムズ株式会社

なお、正式名称に対して略称を定義して、そのあとの文章中にその略称を使うことができます。たとえば、米国 Sun Microsystems, Inc. (以降「Sun」とします) のように定義すれば、そのあとの文で英文名称の替わりに、この「Sun」のような略称を用いる

ことには問題ありません。

また、「For more information, see Sun manuals 」など、Sun という名称を使っている場合には、次の表記を使用してください。

「Sun のマニュアルを参照してください。」

第 2 章

メッセージの翻訳

この章には、メッセージの翻訳に関する注意事項を記載します。

注意 – ここに記載している内容は、標準的な規則です。実際の翻訳の手順については、各プロジェクトの方針に従ってください。

ファイルの種類

この節では、次の種類のメッセージまたはヘルプについて説明します。

- .po
- .msg
- .tmsg
- .java
- .properties
- オンラインヘルプ
  - .html
  - *.hs
  - *MAP.jhm
  - .help、.hlp
  - 拡張子なし

翻訳を行う際の注意事項

各メッセージファイル形式に共通

- 翻訳対象外の文字列

  変数: 現在の文字列ではなく、別のメッセージの文字列に置換して表示されるもので、次のようなものがあります。

  `%s` (文字列)、`%c` (文字)、`%d` (10 進数) など

  次に例を示します。

```
msgid   "There was an error launching the help viewer : %s"
msgstr  "ヘルプを表示する際にエラーが発生しました: %s"
```

上記のメッセージファイルの記述は、実際のソフトウェアでの表示は次のようになります。

```
ヘルプを表示する際にエラーが発生しました: ファイルを読み込めませんでした。
```

- 変数の扱い

  日本語メッセージでも、変数の順番が英語と同じになるようにする必要があります。

  変数の順番を変えなければ日本語にできない場合は、変数の順番を示す数値を指定します。英文メッセージの順で前から 1、2、3... と番号を付与し、次のように 1$、2$,　3$ ... と記述します。

  次に例を示します。

```
msgid   "Checking uninstalled directory format package <%s> from <%s>\n"
msgstr  "<%2$s> からアンインストールされたディレクトリ形式パッケージ <%1$s> を検査中です。\n"
```

複数の種類の変数が使用されている場合も、番号は変数の種類に関わらず英語での順番に則って付与します。

```
msgid  "%s specifies more components (%d) than the "
        "maximum number requested (%d).\n"

(誤) msgstr  "%s は要求された最大数 (%2$d) よりも多い"
              "コンポーネント (%1$d) を指定しています。\n"

(正) msgstr "%1$s は要求された最大数 (%3$d) よりも多い"
              "コンポーネント (%2$d) を指定しています。\n"
```

- 既存の翻訳にある問題

  英語で変更があったメッセージのほかに、誤訳や不適切な表現が見つかってそれを修正したい場合は、勝手に修正せずにあらかじめ Sun の担当者に確認してください。

.po ファイル

必要な作業

変更があった msgid の行に対応する msgstr の行を日本語に翻訳する必要があります。

```
msgid "There was an error launching the help viewer : %s"
msgstr "ヘルプを表示中にエラーが発生しました : %s"
```

コメントアウト行

行頭に # がある行は、メッセージとして認識されないコメント行です。次の例の #NEW_Message は、このメッセージが新規メッセージであることを示すために記述されているコメントで、翻訳対象ではありません。

```
# NEW_Message
msgid "There was an error launching the help viewer : %s"
msgstr "ヘルプを表示中にエラーが発生しました : %s"
```

エスケープシーケンス

バックスラッシュ \ でエスケープします。

二重引用符 " をエスケープする場合 use \"ab2admin -o start\" to.... のようにします。

```
msgid Use \"ab2admin -o start\" to invoke ab2admin application
msgstr ab2admin アプリケーションを起動するには \"ab2admin -o start\" を使用してください
```

.msg ファイル

必要な作業

英語メッセージを、翻訳した日本語メッセージに置き換えます。 メッセージ番号とメッセージ文字列との間に必ず半角スペースを 1 つ入力してください。

次に例を示します。

```
3 スーパーユーザーのパスワードを入力してください。\n
```

改行

メッセージを複数行に改行するには、\n を入力します。

次に例を示します。

```
Msgid ""
"The images necessary to run the wireless monitor are missing.\n"
"Please make sure that it is correctly installed."
 msgstr ""
"ワイヤレスモニターの実行に必要な画像がありません。\n"
"正しくインストールされているか確認してください。"
```

コメントアウト行

行頭に $ がある行は、メッセージとして認識されないコメント行です。

次に例を示します。

```
$ This is a comment for a translator
```

.tmsg ファイル

必要な作業

英語メッセージを、翻訳した日本語メッセージに置き換えます。 メッセージ ID 番号とメッセージ文字列との間に必ず半角スペースを 1 つ入力してください。

次に例を示します。

```
\n32134  root で  admintool を起動
```

改行

メッセージを複数行に改行するには、\\\n\ を入力します。
次に例を示します。

```
32400  このアイコンは、ブロック型特殊ファイルを表しています。\\\n\
データ型は  BLOCK_DEVICE です。
```

コメントアウト行

行頭に $ がある行は、メッセージとして認識されないコメント行です。

CDE メッセージの .tmsg ファイル

- dt/appconfig/types/C/*.dt.tmsg
  各 .tmsg ファイル中の共通部分が _common.dt.tmsg に含まれています。

更新対象は、_common.dt.tmsg ファイル 1 つだけです。

■ dt/app-defaults/C/*.dt.tmsg

_common.dt.tmsg に含まれていないものもあります (エンジニアから指示を受ける)

■ *.dt.nls

翻訳対象外

.java ファイル

必要な作業

■ { "MsgID" , "Message xxxxxxxxx" }, の Message xxxxxxxxxx の部分を日本語メッセージに翻訳してください。

次に例を示します。

```
{ "Exit-Message", "Are you sure you want to end this program ?},
            ↓
{"Exit-Message", "本当にこのプログラムを終了しますか ?"},
```

■ ファイル名と、各クラス名に _ja を付けます。

たとえば AddressSyncConduitMessages.java の場合は、 ファイル名を AddressSyncConduitMessages_ja.java にします。また、ファイル内の行を次のように修正します。

修正前: public class AddressSyncConduitMessages extends ListResourceBundle

修正後: public class AddressSyncConduitMessages_ja extends ListResourceBundle

改行

メッセージを複数行に改行するには、+ を入力します。

次に例を示します。

```
{ "MSG8", "製品が正しく動作するためには" +
" システムをリブートする必要があります。 " +
" ここでリブートしますか ?"},
```

コメントアウト行

行頭に // がある行、または先頭 /** と末尾 */ で囲まれている行は、メッセージとして認識されないコメント行です。

.properties ファイル

必要な作業

tag=messages の "messages" 部分を日本語メッセージに翻訳してください。

次に例を示します。

```
: init_view_explain=Choose what to display for this first time request.
                    ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
                    ここを翻訳↑
```

改行

メッセージを複数行に改行するには、\n を入力します。

コメントアウト行

行頭に # がある行は、メッセージとして認識されないコメント行です。

ヘルプファイル

必要な作業

英語の文章を翻訳した日本語文章に置き換えてください。

.html ファイル

meta タグの中の charset を Sun から指示のあったエンコーディングに合わせて修正してください。たとえば、EUC エンコーディングにするよう指示があった場合は、次の iso-8859-1 の部分を euc-jp にしてください。

```
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=iso-8859-1">
                                                            ~~~~~~~~~~
                                              ここを euc-jp にする↑
```

hs、*MAP.jhm、*TOC.xml ファイル

.html ファイルと共に、*.hs、*MAP.jhm、*TOC.xml ファイルが含まれていることがあります。

- ＊.hs
  先頭行 <?xml version=‘1.0’ encoding=‘ISO-8859-1’ ?> を
  <?xml version=‘1.0’ encoding=‘EUC-JP’ ?> にしてください。

- *MAP.jhm
  先頭行 <?xml version= ‘1.0’ encoding=‘ISO-8859-1’ ?> を
  <?xml version= ‘1.0’ encoding=‘EUC-JP’ ?> にしてください。

- *TOC.xml
  先頭行 <?xml version= ‘1.0 ‘ encoding=‘ISO-8859-1’ ?> を
  <?xml version=‘1.0’ encoding=‘EUC-JP’ ?> にしてください。

.help、.hlp ファイル

行末をそろえてください (1 行の文字数を半角 50 文字くらいにする)。

topics/TOPICS ファイル

ファイル名の行の先頭に、スペースではなくタブで空白を入力してください。 そうしないと、実際にヘルプを表示する時にトピックスとして認識されません。

次に例を示します。

```
DNS 検索リスト
(TAB) dns_searchdomains.help
DNS サーバー
(TAB) dns_server.help
```

拡張子なしファイル

行末をそろえます (1 行の文字数を半角 28 文字くらいにする)。

翻訳の方針と注意事項

- メッセージは短く簡潔に訳します。
- 英数字は半角を使用します。
- 半角と全角の間には、半角スペースを 1 個入れます。
- 括弧は、次のように使用します。
  _(X X X)_ などのようにスペース->括弧->文字列->括弧->スペースとします。

- コロン (:) は、次のように使用します。
  - コロン (:) のうしろに予期しない文字列が使用される場合があるため、基本的には訳さずそのまま残します。

```
You cannot change the date:
日付を変更することはできません:
```

  - 英語が文字とコロンの間にスペースがある場合でも、日本語はスペースを入れません。

```
Open the file : %s
ファイルを開く: %s
```

- 句点は「。」を、読点は「、」を使用します。
- 英文に疑問符 (?) が使用されている場合、日本語でも疑問符 (?) を使用します。ただし、感嘆符 (!) は使用しません。

```
Are you sure you want to quite ?
本当に終了しますか ?
```

```
Password you entered is invalid ! Please enter valid password.
入力したパスワードは無効です。有効なパスワードを入力してください。
```

- 句点の有無は、英文と同じにします。そのほかの表記記号も、できるだけ英語と同じものを使用します。

```
Cannot lock database - too many retries.
データベースをロックできません - 再試行が多すぎます。
```

- 「です・ます」調を原則とします。(文字の長さを考慮する必要があるのであれば体言止め)
- 名詞のみの文章はそのまま名詞の文とします。

  "1 line" --> "1 行"
- ユーザーに y/n を選択させる場合

```
rm: Remove %s: (y/n)?
rm: %s を消去します: (y/n) ?
```

上記のように y または n の選択を促す表現にします。

- 基本的には同じ英語の単語は、同じ日本語に訳すようにします。
- 時制に忠実に訳します。

```
"Could not open document '%s'."
(誤)    "ドキュメント '%s' を開くことができません。"
                ↓
(正)    "ドキュメント '%s' を開くことができませんでした。"
```

- 全角の波ダッシュ (〜) は使用しません。

```
Can be <tt>1</tt>-<tt>65535</tt>
(誤)    <tt>1</tt>〜<tt>65535</tt> を指定できます。
                ↓
(正)    <tt>1</tt> から <tt>65535</tt> を指定できます。
```

注 – メッセージでは、全角の波ダッシュ (〜) を使用すると、文字化けしたり問題が発生したりすることがあります。「30% から 50%」または「30% - 50%」など、そのメッセージの中で統一した別の表記方法を使用してください。

- 引用符号「”」、「’」が使われている場合は、英語のまま使用します。

```
"Could not open document '%s'."
(誤)    "ドキュメント「%s」を開くことができませんでした。"
                ↓
(正)    "ドキュメント '%s' を開くことができませんでした。"
```

- 翻訳の表現を統一します。

• Run Commnad (コマンドの実行)

注ー「コマンドを実行」とすると、用途によっては不適切になる可能性があるので、このような場合は「を」とせずに「の」を採用します。

- ～ ing (～しています)
- Failed to (～に失敗しました)
- Error ～ ing (～中にエラーが発生しました、～しているときにエラーが発生しました)
- Parameter is not valid (パラメータが有効ではありません)
- invalid parameter (無効なパラメータです)
- illegal parameter (不正なパラメータです)

■ 英文の語順に問題がある場合は

同じメッセージ内に、目的となる語が存在しないメッセージを翻訳しなければならない場合があります。通常、%s のような変数を使用して、別のメッセージから流用されるように設定されていますが、まれに、英文の問題から、メッセージが前置詞や動詞で終わってしまっているケースがあります。

翻訳方法の工夫で回避できる場合は、次のようにしてください。

```
msgid “Too many arguments for -”
(誤)　msgstr "- の引数が多すぎます"
　　　　↓
(正)　msgstr "引数が多すぎます - "
```

回避できない場合は、そのとおりに翻訳して、コメントを挿入したり、別ファイルで報告するなどして、TPM/Language Lead に知らせてください。

```
msgid “You cannot”
msgstr "あなたはできません"
#@trans: 英文が不完全なため、適切に翻訳できません
```

送りがなの付け方一覧

この付録には、送りがなの付け方が五十音順に記載してあります。

→

あ	合図	相対する	相手	合う
	会う	仰ぐ	赤い	明かす
	赤らむ	明らむ	飽き足りない	飽きる
	上げ下ろし	上げ下げ	開けっ放し	開ける
	上げる	挙げる	浅い	鮮やか
	足掛かり	足踏み	味わう	預かる
	焦る	遊ぶ	与える	温かい
	暖かい	温める	暖める	新しい
	辺り	当たり	当たり前	暑い
	熱い	厚い	扱い	扱う
	集まり (る)	当てる	充てる	後片付け
	後回し	後戻り	侮る	浴びる
	危ない	甘い	余り [名詞]	余る
	編む	危うく	怪しい	操る
	過ち	誤り (る)	謝る	歩み寄る
	荒い	粗い	荒らす	争い (う)
	改める	表す	現す	著す
	表れる	現れる	有り合わせ	合わせる
	併せる	慌ただしい	哀れむ	

い	言い合い (う)	言い表す	言い換え (える)	言い返す
	言い直し	言い回し	生かす	怒る
	生き生き	勢い	行き先	行き過ぎ
	憤る	行き止まり	生きる	憩い
	潔い	勇ましい	忙しい	急ぐ
	抱く	痛む	傷む	痛める
	傷める	至る	著しい	偽る
	営む	入り口	入り組む	入り交じる
	入れ替え	入れ替える	入れる	色合い
	色刷り	色付け	彩り (る)	祝い (う)
う	飢え (える)	植木	植え付け (ける)	植える
	伺う	浮かぶ	受かる	浮き上がる
	請け合い (う)	受け入れ (れる)	受入先	請け負う
	請負	受け答え	受け継ぐ	受け付け (ける)
	受付係	受付期間	受け止める	受け取り (る)
	受取証	受け持ち (つ)	受持時間	受ける
	動かす	動く	失う	後ろ
	後ろ向き	薄い	薄める	薄れる
	疑い (う)	打ち上げ (げる)	打ち合わせ (わせる)	打ち切り (る)
	打ち消し (す)	打ち出す	打ち直し (す)	美しい
	写し (す)	映し出す	映す	移す
	移り変わり (わる)	疎い	促す	奪い取る
	奪う	埋まる	生む	産む
	埋め合わせ	占う	売り上げ (げる)	売上高
	売り買い	売り切れ (れる)	売り出し (す)	売値
	潤い (す)	売れ行き	上書き	上積み
	上回る	上向き		
え	絵入り	描き出す	描く	選び出す
	選ぶ	得る		
お	追い返す	追い掛ける	追い越し (す)	追い込み (む)
	追い立てる	追い付く	追い詰める	追い払う
	負う	応じる	終える	大当たり

	大慌て	多い	覆い (う)	大いに
	大きい	大きさ	大っぴら	大まか
	犯す	冒す	侵す	起き上がる
	置き換える	置物	補う	起きる
	奥行	送り先	送る	贈る
	後れ	遅れ(れる)	起こす	怠る
	行い (う)	起こり (る)	押さえ(さえる)	抑え込む
	行なって (例外)			
	抑える	幼い	収める	治める
	納める	修める	押し合い (う)	教え (る)
	押し込み (む)	推し進める	押し出す	推し量る
	惜しむ	押す	推す	恐れ (る)
	恐ろしい	教わる	穏やか	陥る
	陥れる	落ち込む	落ち着き (く)	脅かす
	落とし穴	落とす	訪れる	劣る
	踊る	衰える	驚かせる	同じ
	覚え書き	覚える	重い	思い当たる
	思い起こす	思い切り [名詞]	思い込む	思い過ごし
	思い違い	重たい	主な	主に
	及ぶ	及ぼす	折り返し (す)	折返線
	折り曲げる	愚か	卸	卸し売り
	卸値	終わり (わる)		
か	買い上げ (げる)	買い入れ (れる)	買入価格	概して
	買い手	買い取り (る)	買い物	買う
	飼う	交う	返す	代え (る)
	替え (える)	換え (える)	省みる	顧みる
	変える	変わる	返る	帰る
	抱え込む	抱える	掲げる	輝く
	係る	掛かる	架かる	懸かる
	書き上げる	書き誤り (る)	書き表す	書き写す
	書き換え (える)	書換手数料	書き込み (む)	書き損ない (う)
	書き足す	書き出し (す)	書留	書き直す
	限り (る)	隠す	芳しい	掛け合わせる

	駆け回る	欠ける	駆ける	囲い
	囲む	重ねる	飾り	飾り付け
	飾り文字	貸し借り	賢い	貸し出し (す)
	貸出日	貸し付け (ける)	貸付金	箇条書き
	風当たり	風通し	数える	堅い
	固い	硬い	難い	肩代わり
	片付ける	塊	固まり (まる)	傾く
	傾ける	偏る	語り合う	語る
	傍ら	勝ち越し (す)	担ぐ	悲しむ
	必ず	兼ねる	構える	通う
	空っぽ	絡まる	空回り	絡み合う
	絡み付く	絡む	狩り	仮
	借り入れ (れる)	借入金	刈り取り (る)	軽い
	軽やか	乾く	渇く	交わす
	代わり (わる)	代わりに	替わる	考え方
	考え違い	考え付く	考える	感じ (じる)
	頑張る			
き	消える	気負う	気後れ	気軽
	聞き返す	聞き漏らす	聞き分ける	聞く
	聴く	利く	効く	聞こえる
	刻む	傷つく	競う	鍛える
	汚い	気付く	厳しい	決まって
	決まり	気短	決め手	決める
	気持ち	清い	嫌い (う)	切り上げ (げる)
	切り落とす	切り替え (える)	切替日	切り下げ (げる)
	切り捨て (てる)	切り取り (る)	切取線	切り抜き (く)
	切り離す	切り張り	切れ込み	切れ目
	際立 (つ)	極まる	極めて	極める
	究める			
く	具合	悔い	食い込む	食い違い (う)
	区切り (る)	崩す	砕く	下さる
	下り坂	下る	覆す	配る

	組 [組分け、赤組]	組み [一組み、見本組み]	組合	組み合う
	組み合わせ (せる)	組み替え (える)	組み立て (てる)	組む
	悔しい	悔やむ	暗い	暮らし
	暮らす	比べる	操り上げ (げる)	操上償還
	繰り返し	繰り広げる	狂う	苦しい
	暮れる	黒い	加える	詳しい
	企て (てる)			
け	消印	消し止める	消す	削る
	桁外れ	決して	煙い	煙
	現金払	検査済み	検査済証	見当違い
こ	濃い	被る	小売り	小売価格
	越える	超える	凍り付く	凍る
	小刻み	焦げ付く	心当たり	心得る
	志す	心細い	試み (みる)	快い
	濃さ	答え (える)	異なる	断り (る)
	好ましい	好み (む)	好んで	細かい
	困る	込み合う	込み入る	肥やす
	懲りる	凝る	転がす	転がり落ちる
	殺す	転ぶ	怖い	壊れる
さ	幸い	遮る	境目	栄える
	逆さ	探し当てる	探し回る	探し物
	探す	捜す	盛り	下がる
	盛ん	先取り	裂く	割く
	奪う	埋まる	生む	産む
	探る	裂け目	避ける	提げる
	下げる	支え (える)	刺さる	差し上げる
	挿絵	差し替える	差し込み	差し込み口
	差し込む	差し障り	指し示す	指図
	差し出し	差し出し口	差出人	差し出す
	差し控える	差し引き	差し向かい	差す
	挿す	指す	刺す	誘う

	定まる	察する	裁く	寂しい
	冷ます	覚ます	妨げ (る)	寒い
	冷める	覚める	去る	騒ぎ (ぐ)
	障り (る)	触る		
し	試合	仕上がり (がる)	仕上げ	幸せ
	強いる	仕入れ (れる)	仕入先	敷物
	敷く	字配り	仕組み (む)	仕込み (む)
	静か	静まる	沈む	沈める
	静める	し損なう	従う	親しい
	下回る	品切れ	支払い (う)	支払人
	縛り付ける	縛る	渋い	絞り (る)
	搾る	閉まる	締まり (まる)	染み込む
	仕向ける	締め切り (る)	締切日	示す
	締め付け (ける)	閉める	締める	湿る
	占める	準じる	知らせ (る)	調べる
	知り合い (う)	退く	知り抜く	記す
	信じる			
す	吸い上げる	吸い込み (む)	吸い出す	吸い付く
	据え置き (く)	据え付け (ける)	据付工事	据える
	透かす	好き嫌い	過ぎ去る	透き通る
	過ぎる	救い出す	救う	少ない
	少なくとも	優れる	透ける	少し
	健やか	筋書き	涼しい	進める
	勧める	薦める	廃れる	酸っぱい
	捨てる	素通り	滑り出し (す)	滑り止め
	滑る	住まい	済ます	済む
	刷り上がる	擦り切れる	擦り減る	擦る
	鋭い	座り (る)		
せ	背負う	接する	背中合わせ	狭まる
	狭い	狭苦しい	迫る	責める
	攻める			

そ	沿う	添う	添え書き	添える
	損なう	注ぐ	育つ	育てる
	素っ気ない	備え付け (ける)	備付品	染まる
	背く	反り返る	反る	
た	体当たり	平ら	耐える	堪える
	絶える	倒す	倒れる	高い
	互い	高める	耕す	抱き合わせ
	抱き込み	蓄える	出し入れ	確かめる
	足す	助け合う	助ける	携える
	携わる	尋ねる	訪ねる	正しい
	漂う	立ち会い (う)	立会人	立ち上がり (る)
	立ち入り (る)	立入禁止	断ち切る	立ち止まる
	立つ	建つ	裁つ	断つ
	立て掛ける	立て続け	立て札	建てる
	建て替え (える)	縦書き	縦組み	例え (える)
	楽しい	楽しむ	頼み (む)	束ねる
	食べ物	食べる	黙る	試し
	試す	保つ	便り	頼り (る)
	垂らす	足りる		
ち	小さい	近い	違い (う)	近付く
	縮み上がる	縮む	散らかす	
つ	費やす	通じる	使い方	使い切る
	使い果たす	使い分け	使う	遣う
	仕える	捕まる	漬かる	疲れる
	付き合い	継ぎ足す	突き放す	突く
	付く	着く	就く	次ぐ
	接ぐ	継ぐ	尽くす	償う
	作り替える	作り方	作る	造る
	付け加える	付け足し (す)	付ける	告げる
	伝え聞く	伝える	続き (く)	続ける

	慎む	謹む	包み紙	包む
	勤め先	勤める	努める	務める
	常に	募る	詰まる	積み上げる
	積み替える	積み重ねる	積み込む	積み立て (る)
	積立金	詰め替え (える)	冷たい	積もる
	強い	強める	貫く	連ねる
	釣り合い (う)	釣り上げる	連れ	
て	手当て	手荒い	出入り	出入り口
	手入れ	手遅れ	手掛かり	手書き
	手堅い	出来上がり (がる)	出来栄え	手先
	手探り	手提げ	手近	手伝う
	手続き	手っ取り早い	手直し	手抜き
	手控える	出回る	手短	手持ち
	手持品	照らし合わせ (わせる)		
と	度合い	問い	問い合わせ (る)	遠い
	通す	遠回り	通り過ぎる	通り抜ける
	通る	解かす	溶かす	解け合う
	溶け合う	解ける	溶ける	説き起こす
	遂げる	閉ざす	取っ付き	取っ手
	届く	届け先	届け済み	届け出
	届ける	滞り (る)	整える	調える
	隣	隣合う	隣り合わせ	跳び上がる
	飛び上がる	飛び降りる	跳び越す	飛び越す
	飛び立つ	跳び回る	飛び回る	飛ぶ
	跳ぶ	乏しい	戸惑う	止まる
	泊まる	富	富む	止める
	伴う	捕らえる	取り合う	取り扱い
	取り扱う	取扱説明書	取り合わせ	取り入る
	取り入れる	取り替え (える)	取り交わす	取り決め (める)
	取組	取り組む	取り消し	取り去る
	取り締まり (まる)	取締役	取りそろえる	取り次ぎ
	取次者	取り付け (ける)	取付工事	取り直す

	撮り直す	取り除く	取り計らい (らう)	取り外す
	取り払う	取り引き	取引先	取り巻く
	取り戻す	取りやめる	取り寄せる	取り分ける
	取る	採る	執る	撮る
	捕る			
な	直す	治す	長い	流し込む
	半ば	眺め (める)	流れる	投げ入れる
	投げ飛ばす	和やか	名残	情け
	成し遂げる	懐かしい	名付ける	斜め
	怠ける	並み	並木	滑らか
	悩む	習う	倣う	並ぶ
	成り立ち (つ)	成り行き	鳴る	慣れる
に	似合う	煮える	苦い	逃がす
	似通う	握る	憎らしい	逃げ出す
	濁る	担う	鈍い	
ぬ	縫い方	抜かす	抜き書き	抜き捨てる
	抜き出す	抜き取り	脱ぐ	抜ける
	盗む	塗り替え	塗る	
ね	値上がり	値上げ	願い (う)	寝転ぶ
	粘り気	粘り強い	粘る	眠い
	狙い (う)	練り合わせる	練り直す	練る
の	逃れる	軒並み	残す	残り物
	乗せる	載せる	除く	望み (む)
	臨む	延ばす	伸ばす	伸び率
	伸びる	延べ日数	述べる	上り (る)
	登る	昇る	飲み食い	飲み込む
	飲み物	乗り移る	乗り降り	乗り換え (える)
	乗換券	乗り組む	乗組員	乗り越し
	乗り回す	乗る	載る	

は	入る	生え変わる	生え抜き	生える
	映える	栄える	計る	図る
	量る	測る	掃き出す	吐き出す
	激しい	励み (む)	化ける	運ぶ
	挟む	恥	始まる	始め
	恥じらう	走り書き	走る	恥ずかしい
	外す	弾む	外れ (る)	果たす
	働き (く)	果て (てる)	話	話し合い (う)
	話し掛ける	話し方	話し込む	話す
	放す	離す	華やか	放れる
	離れる	跳ね上がる	跳ねる	幅広い
	阻む	省く	早い	速い
	払い込み (む)	払込金	腹立たしい	張り合い (う)
	張り替え	張り替える	張り出す	張る
	晴れ (る)			
ひ	日当たり	冷える	控え (る)	控室
	光	光る	引き合い (う)	引き上げ (る)
	引当金	引き合わせ (る)	率いる	引き受け (る)
	引受時刻	引き起こす	引換券	引き返す
	引き込む	引き下げ	引き締め (める)	引き出し (す)
	引き継ぎ (ぐ)	引き延ばし (ばす)	引き伸ばし (ばす)	引き分け (ける)
	引く	弾く	低い	久しぶり
	潜む	浸す	左利き	左向き
	引っ掛かる	日付	引っ越し (す)	引っ張る
	一抱え	人騒がせ	等しい	人並み
	一回り	一休み	独り占め	響く
	冷やす	開く	平たい	翻る
	広い	拾い読み	拾う	広がる
	広める			

ふ	分厚い	封じる	増える	殖える
	深い	噴き上げる	吹き上げる	吹き飛ばす
	吹く	噴く	含む	含める
	膨らむ	膨れる	更ける	防ぐ
	太い	懐	不慣れ	踏まえる
	踏切	踏み切る	踏み込む	踏み締める
	踏む	不向き	殖やす	増やす
	振り替え (える)	振替貯金	振り返る	振りがな
	振り出し	振り向ける	振り分ける	古い
	奮い立つ	奮う	震う	振るう
	震え (える)	触れる		
へ	隔たり	隔てる	減らす	減る
	経る			
ほ	朗らか	誇り (る)	欲しい	細い
	施す	褒める	彫り上げる	掘り下げる
	滅びる			
ま	舞い込む	前売り	前売券	任せる
	賄い (う)	曲がり (る)	巻き付く	紛らわしい
	紛れ込む	紛れる	負ける	勝る
	混ざる	交ざる	混じる	交じる
	交わる	増す	貧しい	混ぜる
	待合室	待ち合わせ (わせる)	間近	間違い
	間違える	待つ	真っ白	的外れ
	惑わす	間に合う	間に合わせ	招く
	間延び	瞬き	瞬く	守る
	迷う	丸い	円い	回す

	回り（る）	周り	回り道	真ん中
み	見当たる	見合わす	見送る	見落とす
	見覚え	見返す	磨き上げる	磨く
	右利き	右向き	見極める	見込み（む）
	短い	惨め	水洗い	自ら
	水増し	満たす	満ちる	乱れ
	身近	見違える	導き出す	導く
	見積もり（もる）	見積書	見通し	見取り図
	見直す	見習い（う）	醜い	見抜く
	見逃す	実る	見栄え	見張り
	見回す	見渡す		
む	向かい合う	向かう	迎え（える）	向き（く）
	報い（いる）	向こう	蒸し暑い	蒸し返し（す）
	蒸す	難しい	結び付く	結ぶ
	群がる	群れ（れる）		
め	目新しい	命じる	恵まれる	巡らす
	巡り合う	巡り合わせ	巡る	目指す
	目覚める	珍しい	目立つ	目盛り
も	設ける	申し込み（む）	申込書	燃える
	潜り込む	持ち歩き	用いる	持ち帰る
	持ち込み（む）	持ち出し	持ち運ぶ	持て余す
	戻す	基づく	求める	物語（る）
	燃やす	催し（す）	催し物	最寄り
	盛り返す	盛る	漏れる	
や	焼き切る	焼き増し	焼く	訳す
	役立てる	役割	優しい	養う

	安上がり	安い	安売り	休み (む)
	矢継ぎ早	雇い入れる	雇う	破れ (る)
	病みつき	辞める	柔らかい	軟らかい
	和らぐ			
ゆ	行き過ぎ (ぎる)	行き止まり	行方	行く先
	譲り受ける	揺する	豊か	豊かに
	許し (す)	揺れ動く	揺れる	
よ	良い	善い	欲張り (る)	横書き
	横組み	汚す	汚れ	寄せ集め (める)
	寄せる	装い (う)	呼び入れる	呼び出し (す)
	呼出電話	読み上げる	読み合わせ	読み終わる
	読み替え (える)	読み書き	読み切り (る)	読み込み (む)
	読み出し (す)	読み取り (る)	喜ぶ	弱める
ら	落書き			
り	両替	両隣		
わ	若い	我が国	沸かす	分かち書き
	分かれる	別れる	枠組み	分け目
	災い	煩わしい	忘れ物	忘れる
	渡る	割合	割り当て (てる)	割当量
	割り切る	割り算	割り付け (ける)	割り引く
	割引	割り振り	割り増し (す)	割れる

付録 B

漢字とかなの使い分け一覧

この付録には、漢字とかなの使い分けが難しいものについて、五十音別に記載してあります。

	使う表記	使わない表記	品詞
あ	あいかわらず	相変らず	副詞
	あいまい	曖昧	名詞・形容動詞
	あえて	敢えて	副詞
	あくまで	飽迄	副詞
	挙げて	あげて	副詞
	上げる	あげる	動詞
	〜あげる	〜上げる	補助動詞
	あと	後	名詞
	あなた	貴方・貴女	代名詞
	余り	あまり	名詞
	あまりに	余りに	副詞
	危うく	あやうく	副詞
	あらかじめ	予め	副詞
	あらためて	改めて	副詞
	ありえない	有り得ない	連語
	ありがとう	有り難う	感動詞
	ある	有る	動詞
	〜ある	〜有る	補助動詞
	ある	或る	連体詞

	使う表記	使わない表記	品詞
	合わせる	あわせる	動詞
	併せる	あわせる	動詞
	あわせて	併せて	副詞
	案外	あんがい	副詞
い	言う	いう	動詞
	いきいき	生き生き	副詞
	行く	いく	動詞
	〜いく	〜行く	補助動詞
	いくつ	幾つ	名詞
	いくぶん	幾分	副詞
	いくら	幾ら	副詞
	いくらか	幾らか	副詞
	依然	いぜん	副詞
	頂く	いただく	動詞
	〜いただく	〜頂く	補助動詞
	いちいち	一々	副詞
	一応	いちおう	副詞
	一概に	いちがいに	副詞
	一段と	いちだんと	副詞
	一度に	いちどに	副詞
	いちばん	一番	副詞
	いつ	何時	代名詞
	いつか	何時か	副詞
	一気に	いっきに	副詞
	一挙に	いっきょに	副詞
	一見	いっけん	副詞
	一向に	いっこうに	副詞
	一切	いっさい	副詞
	一緒に	いっしょに	副詞
	一斉に	いっせいに	副詞
	一層	いっそう	副詞
	一体	いったい	名詞

	使う表記	使わない表記	品詞
	いったい	一体	副詞
	一端	いったん	名詞
	いったん	一旦	副詞
	いっぱい	一杯	形容動詞・副詞
	一般に	いっぱんに	副詞
	一遍	いっぺん	名詞
	いっぺんに	一遍に	副詞
	一方	いっぽう	接続詞
	いつも	何時も	副詞
	今	いま	名詞
	いま	今	副詞
	いまさら	今更	副詞
	いまだに	未だに	副詞
	いまに	今に	副詞
	いまにも	今にも	副詞
	いまや	今や	副詞
	居る	いる	動詞
	～いる	～居る	補助動詞
	いろいろ	色々	副詞
	いわば	言わば	副詞
	いわゆる	所謂	連体詞
う	うまい	上手い・巧い	形容詞
え	～えない	～得ない	形容詞
	得る	える	動詞
	えんえん	延々	形容動詞
お	お～	御～	接頭語
	おいしい	美味しい	形容詞
	大いに	おおいに	副詞
	大ざっぱ	大雑把	形容動詞

	使う表記	使わない表記	品詞
	大っぴら	おおっぴら	形容動詞
	大まか	おおまか	形容動詞
	おおむね	概ね	副詞
	おおもと	大本	名詞
	おおらか	大らか	形容動詞
	おかしい	可笑しい	形容詞
	置く	おく	動詞
	～おく	～置く	補助動詞
	おそらく	恐らく	副詞
	おのおの	各々	副詞
	思いきって	思い切って	副詞
	思い切り	思いきり	名詞
	思いきり	思い切り	副詞
	おもし	重し	名詞
	おもしろい	面白い	形容詞
	主な	おもな	形容動詞
	主に	おもに	副詞
	およそ	凡そ	副詞
	及び	および	名詞
	および	及び	接続詞
	及ぶ	およぶ	動詞
	おろそか	疎か	形容動詞
か	か・カ	箇	接尾語
	かえって	却って	副詞
	かかわり	係わり・関わり	名詞
	かかわる	係わる・関わる	動詞
	～かぎり	～限り	接尾語
	限り	かぎり	名詞
	加減	かげん	名詞
	～かげん	～加減	接尾語
	型どおり	型通り	名詞・形容動詞
	かたとき	片時	名詞

	使う表記	使わない表記	品詞
	かつ	且つ	接続詞
	かっこう	格好	名詞
	必ず	かならず	副詞
	必ずしも	かならずしも	副詞
	兼ねる	かねる	動詞
	彼女	かのじょ	代名詞
	ガラス	硝子	名詞
	仮	かり	名詞
	かりに	仮に	副詞
	彼	かれ	代名詞
	かわいい	可愛い	形容詞
	かわいらしい	可愛らしい	形容詞
	代わりに	かわりに	副詞
	かわるがわる	代わる代わる	副詞
き	決まって	きまって	副詞
	きれい	奇麗	形容動詞
	きわめて	極めて	副詞
	極める	きわめる	動詞
く	下さい	ください	動詞
	～ください	～下さい	補助動詞
	位	くらい	名詞
	～くらい・～ぐらい	～位	助詞
	来る	くる	動詞
	～くる	～来る	補助動詞
け	結局	けっきょく	副詞
	決して	けっして	副詞
	現に	げんに	副詞
こ	ご～	御～	接頭語

	使う表記	使わない表記	品詞
	ごく	極く	副詞
	心がける	心掛ける	動詞
	試み	こころみ	名詞
	こたえる	応える	動詞
	事	こと	名詞
	こと	事	形式名詞
	～ごと	～毎	接尾語
	ことさら	殊更	副詞
	ことに	殊に	副詞
	事によると	ことによると	副詞
	この	此の	連体詞
	この際	このさい	副詞
	このへん	この辺	連語
	好んで	このんで	副詞
	こまごま	細々	副詞
	こまやか	細やか	形容動詞
	これ	此れ	代名詞
	ころ	頃	名詞
	ころあい	頃合い	名詞
	こんにちは	今日は	感動詞
	こんばんは	今晩は	感動詞
さ	幸い	さいわい	名詞
	さいわい	幸い	副詞
	逆さま	逆様	形容動詞
	盛ん	さかん	形容動詞
	先に	さきに	副詞
	さしあたり	差し当たり	副詞
	さすが	流石	副詞
	さほど	左程	副詞
	さまざま	様々	名詞・形容動詞
	さらに	更に	副詞・接続詞

	使う表記	使わない表記	品詞
し	しいて	強いて	副詞
	仕方	しかた	名詞
	しかたがない	仕方が無い	連語
	じかに	直に	副詞
	〜しだい	〜次第	接尾語
	次第	しだい	名詞
	しだいに	次第に	副詞
	従う	したがう	動詞
	したがって	従って	接続詞
	実際	じっさい	副詞
	実に	じつに	副詞
	しばらく	暫く	副詞
	しまう	仕舞う	動詞
	十分に	じゅうぶんに	副詞
	従来	じゅうらい	副詞
	主として	しゅとして	副詞
	少々	しょうしょう	副詞
	徐々に	じょじょに	副詞
	知らず知らず	しらずしらず	副詞
す	ずいぶん	随分	副詞
	少なくとも	すくなくとも	副詞
	すぐに	直に	副詞
	少し	すこし	副詞
	すてき	素敵	形容動詞
	すでに	既に	副詞
	すなわち	即ち	接続詞
	すばやい	素早い	形容詞
	すばやく	素早く	副詞
	すばらしい	素晴らしい	形容詞
	すべて	全て・総て	副詞
	すみやか	速やか	形容動詞

	使う表記	使わない表記	品詞
せ	せっかく	折角	副詞
	絶対に	ぜったいに	副詞
	ぜひ	是非	副詞
	全然	ぜんぜん	副詞
そ	相当	そうとう	副詞
	その他	そのた	名詞
	そば	側	名詞
	そろえる	揃える	動詞
た	たいした	大した	連体詞
	たいして	大して	副詞
	だいたい	大体	副詞
	たいてい	大抵	副詞
	だいぶ	大分	副詞
	たいへん	大変	形容動詞・副詞
	絶えず	たえず	副詞
	互いに	たがいに	副詞
	たくさん	沢山	形容動詞・副詞
	たくみ	巧み	形容動詞
	丈	たけ	名詞
	たしか	確か	形容動詞・副詞
	ただ	只・唯	副詞・接続詞
	ただし	但し	接続詞
	ただちに	直ちに	副詞
	〜たち	〜達	接尾語
	たつ	発つ・経つ	動詞
	例え	たとえ	名詞
	たとえば	例えば	副詞・接続詞
	例える	たとえる	動詞
	たび	度	名詞
	〜たび	〜度	接尾語

	使う表記	使わない表記	品詞
	たびたび	度々	副詞
	たぶん	多分	副詞
	ため	為	名詞
	～ため	～為	形式名詞
	試し	ためし	名詞
	試す	ためす	動詞
	だれ	誰	代名詞
	段々	だんだん	名詞
	単なる	たんなる	連体詞
	単に	たんに	副詞
ち	近ごろ	近頃	名詞・副詞
	近々	ちかぢか	副詞
	ちょうど	丁度	形容動詞・副詞
	ちょっと	一寸	副詞
つ	ついで	次いで	接続詞
	ついに	遂に	副詞
	通常	つうじょう	副詞
	～つき	～付き	名詞
	次々に	つぎつぎに	副詞
	次に	つぎに	副詞・接続詞
	付く	つく	動詞
	就く	つく	動詞
	つど	都度	名詞
	常に	つねに	副詞
	つまり	詰まり	副詞・接続詞
	つらい	辛い	形容詞
て	～である	～で有る	連語・助動詞
	ていねい	丁寧	名詞・形容動詞
	手がける	手掛ける	動詞

	使う表記	使わない表記	品詞
	出かける	出掛ける	動詞
	できる	出来る	動詞
	てごろ	手頃	名詞・形容動詞
	でたらめ	出鱈目	名詞
	〜でない	〜で無い	連語
と	〜という	と言う	連語
	当然	とうぜん	副詞
	通り	とおり (例: どの細い通りですか。)	名詞
	とおり	通り (例: とおりのよい名前)	名詞
	〜とおり	〜通り	接尾語
	通る	とおる	動詞
	時	とき	名詞
	とき	時	形式名詞
	ときどき	時々	副詞
	ときに	時に	副詞
	特に	とくに	副詞
	どこ	何処	代名詞
	所	ところ	名詞
	ところ	所	形式名詞
	突然	とつぜん	副詞
	とどまる	留まる	動詞
	とどめる	留める	動詞
	とびとび	飛び飛び	副詞
	とめる	留める	動詞
	共〜	とも〜 (例: 共稼ぎ)	名詞
	〜とも	〜共 (例: 4 人とも)	名詞
	〜とも・〜ども	〜共 (例: 子ども)	接尾語
	ともかく	兎も角	副詞
	ともに	共に	副詞
	とりあえず	取り敢えず	副詞

	使う表記	使わない表記	品詞
	とりわけ	取り分け	副詞
な	ない	無い	形容詞
	〜ない	〜無い	助動詞
	なお	尚	副詞・接続詞
	なおさら	尚更	副詞
	中	なか	名詞
	なかでも	中でも	連語
	なかなか	中々	副詞
	長々と	ながながと	副詞
	なくす	無くす	動詞
	なくなる	無くなる	動詞
	〜なげ	〜無げ	形容動詞
	なし	無し	名詞
	なぜ	何故	副詞
	なぜなら	何故なら	接続詞
	〜など	〜等	助詞
	何	なに	代名詞
	なに	何	副詞
	なにか	何か	副詞
	何か	なにか	連語
	なにかしら	何かしら	副詞
	なにかと	何かと	副詞
	なにしろ	何しろ	副詞
	なにより	何より	副詞
	成る	なる	動詞
	〜なる	〜成る	補助動詞
	なんでも	何でも	副詞
	なんら	何ら	副詞
に	〜にもかかわらず	〜にも拘わらず	連語

	使う表記	使わない表記	品詞
は	はがき	葉書	名詞
	始め・初め	はじめ	名詞
	はじめて	初めて	副詞
	始める	はじめる	動詞
	はず	筈	名詞
	外す	はずす	動詞
	はたして	果たして	副詞
	果たす	はたす	動詞
ひ	日ごろ	日頃	名詞
	日差し	日ざし	名詞
	非常に	ひじょうに	副詞
	一つ	ひとつ	名詞
	ひとつ	一つ	副詞
	一つ一つ	ひとつひとつ	名詞
	ひとつひとつ	一つ一つ	副詞
	ひとつも	一つも	副詞
	ひととおり	一通り	副詞
	ひと目	一目	名詞
ふ	～ふうだ	～風だ	助動詞
	ふさわしい	相応しい	形容詞
	ふたたび	再び	副詞
	ふだん	普段	名詞
	普通	ふつう	名詞
へ	ページ	頁	名詞
	べつに	別に	副詞
ほ	～ほうだい	～放題	接尾語
	ほか	外・他	名詞
	～ほか	～他・～外	助詞
	欲しい	ほしい	形容詞

	使う表記	使わない表記	品詞
	～ほしい	～欲しい	補助形容詞
	程	ほど	名詞
	～ほど	～程	助詞
	ほとんど	殆ど	副詞
	本当に	ほんとうに	副詞
ま	まさに	正に	副詞
	まじめ	真面目	名詞
	まず	先ず	副詞
	ますます	益々	副詞
	また	又	副詞・接続詞
	まだ	未だ	副詞
	または	又は	接続詞
	まったく	全く	副詞
	～まで	～迄	助詞
	まね	真似	名詞
	まれ	稀	形容動詞
み	見つかる	見付かる	動詞
	皆	みな	名詞
	皆さん	みなさん	代名詞
	見る	みる	動詞
む	難しい	むずかしい	形容詞
	むなしい	空しい・虚しい	形容詞
	無理に	むりに	副詞
	無理やり	むりやり	副詞
	むろん	無論	副詞
め	めったに	滅多に	副詞
	めど	目処	名詞

	使う表記	使わない表記	品詞
も	もちろん	勿論	形容動詞・副詞
	もっとも	最も	副詞
	もともと	元々	副詞
	もの	物	形容名詞
	もらう	貰う	動詞
	〜もらう	〜貰う	補助動詞
や	やさしい	易しい	形容詞
	〜やすい	〜易い	形容詞
	やすやすと	易々と	副詞
	やむをえず	やむを得ず	副詞
	やむをえない	やむを得ない	連語
	やめる	止める	動詞
ゆ	ゆえに	故に	副詞
よ	要するに	ようするに	副詞・接続詞
	〜ように	〜様に	助動詞
	ようやく	漸く	副詞
	よけいに	余計に	副詞
	よほど	余程	副詞
り	りっぱ	立派	形容動詞
わ	わかる	分かる・解る・判る	動詞
	分かれる	わかれる	動詞
	わけ	訳	名詞
	分ける	わける	動詞
	わずか	僅か	形容動詞・副詞
	私	わたくし	代名詞
	私たち	わたくしたち	代名詞
	わりに	割に	副詞

付録 C

参考資料

この付録には、翻訳作業に役立つ情報を記載しています。

用語の検索と更新

用語集は、随時更新していくことが大切です。Sun の場合は、SunGloss (https://g11nportal.sun.com/sungloss/index.jsp) を参照してください。

SunGloss での検索

Product Lines というセクションには製品ごとの分類があります。General というカテゴリには、製品に依存しない用語があります。優先順位は、「各プロジェクト・製品名」→「General」としてください。

各プロジェクト・製品名や General に用語がなくても、他の製品の用語に含まれている場合があります。

これらのことから、SunGloss の検索画面では、次のような設定にすることをお勧めします。

- Source Language: English (en-US)
- Target Language: Japanese (ja-JP)
- Product Lines: 「Select All Product Lines」をオンにする
- Display: 「Term with Details」をオンにする

SunGloss の更新

SunGloss に記載されていない専門用語を翻訳したり、SunGloss にある用語に質問や懸

念がある場合は、Sun の日本語 Language Lead (ランゲージリード) に連絡してください。

連絡先

SunGloss 、日本語スタイルガイド、および、Sun の翻訳方針についてご意見やご質問をお持ちの場合は、日本語 Language Lead までご連絡ください。

日本語 Language Lead: 斎藤　玲子

電子メール: reiko.saito@sun.com

ブログ: http://blogs.sun.com/reiko

電話番号: 03-5962-4912